高等学校教育改革先導校コーディネーター配置業務委託　仕様書案

１　目的

文部科学省「産業イノベーション人材育成等に資する高等学校等教育改革促進事業」における先導的な取組を行う拠点である青森県立弘前工業高等学校、青森県立八戸北高等学校及び青森県立青森南高等学校（以下「改革先導校」という。）が取組を実施するに当たり、関係機関等との連携や取組内容のブラッシュアップ等を行うコーディネーターの配置に関する業務を委託するもの。

２　委託期間

契約締結日から令和９年３月３１日（水）まで

３　業務内容

（１）コーディネーターの配置

改革先導校の取組（別紙参照）を充実させるため、各校２名のコーディネーターを配置すること。

なお、コーディネーターの給料や出張に係る旅費等、コーディネーターの配置に伴い必要となる経費については全て受注者が負担すること。

【コーディネーターの勤務体系及び主な業務】

勤務体系	・勤務日及び勤務時間は、１週間につき２９時間を超えない範囲内において、配置する学校と調整して定めるものとする。ただし、１日の勤務時間は、７時間４５分を超えない範囲内とする。 ・年次休暇等については、受注者の定めによるものとする。
主な業務	・連携する外部機関・人材の発掘及びリスト作成 ・連携する外部機関・人材及び視察先との連絡調整 ・月２回程度の県内出張 ・取組の具体的な企画・運営（当日の記録を含む） ・取組内容の他校への普及 ・取組成果の整理・広報 ・次年度以降に向けた取組内容のブラッシュアップ　等

（２）コーディネーターの配置に伴う物品等の導入

コーディネーター配置に伴い必要な物品を導入すること。

①　業務用ＰＣ

②　業務用机及び椅子（規格等については契約時、改革先導校と調整すること）

４　成果品

コーディネーターの業務実績については、翌月１０日までに県教育委員会に提出すること。

また、最終報告書を令和９年３月３１日に県教育委員会に提出すること。

５　留意事項

（１）業務の実施に当たっては、事前に県教育委員会及び改革先導校と十分に協議を行うこと。

（２）契約締結後、本業務の目的に鑑み、受注者が効果的であると考える事項があれば、積極的に提案すること。
（３）コーディネーターについて、２名の配置が難しい場合には、１名配置した上で、もう１名の配置に向けた採用活動等を継続すること。なお、コーディネーターが１名となる間は、もう１名の配置の代替となる手段で対応すること。
（４）コーディネーターが不在となる場合には、欠員の補充に取り組むとともに、その代替となる手段を早急に講じること。
（５）委託契約の締結後、コーディネーターの配置状況によっては、委託契約金額を減額変更することがある。
（６）その他、本仕様書に定めのない事項については、県教育委員会と受注者とが協議して定めるものとする。

【青森県】分野を越えて課題に挑む「越境型工業人材」育成拠点形成

青森県立弘前工業高等学校
（全日制/機械・電気・電子・情報技術・建築・土木科）

アド	理数	多様
○		

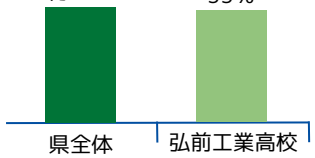
○　青森県では、人口減少下でも半導体・エネルギー等の成長産業を担う技術人材を確保し、地域経済の持続的な発展につなげることが課題。
○　工業高校においては、複数の専門分野を横断して現場の課題を捉え、企業と共に改善・変革を主導できる技術者の育成が急務。
○　専門領域を越えて課題を解決し、新たな価値を生み出せる人材を輩出できるよう“学科横断型ものづくり人材育成モデル”のパイロットケースの創出・普及に取り組む。

人材育成の現状・課題

●半導体・エネルギー等のGX領域で「GX青森」等により産業集積が進む一方、2040年の工業高校卒の現場技術人材の不足は約1.1万人と見込まれる
●工業高校卒業生の県内就職率は約4割（弘前工業は35%）と低迷し、高い技術力を持つ県内企業を生徒・保護者が十分に認知できていない
●産業界からは分野横断的にものづくりを考える視点と協働経験が求められる一方、カリキュラム不足や設備老朽化から個別技術習得に留まっている

1.1万人
2040年の**工業高校卒ミスマッチ数**
（県内推計）
県全体

工業高卒の県内就職率



県全体、弘前工業高校ともに**約4割**と低迷

具体の事業内容

【拠点における主な改革目標】
●分野横断的なものづくりの視点を持ち、県内の成長産業を支える「越境型工業人材」を継続的に育成し、県内の成長産業や企業への就職及び進学につなげることで、本県の将来を支える人材基盤の形成を目指す

【主な取組内容・創出するパイロットケース】
（教育改革①）県内に活躍の場があることを理解する認知の拡大
●GX関連産業（半導体・洋上風力・原子力・フュージョンエネルギー等）の技術者によるキャリア共創講座を継続実施
●（株）イオスエンジニアリング・日本風力開発（株）等と連携した体験実習「県内成長産業フィールドプログラム」を実施
（教育改革②）技術分野を横断して捉える力を育む学科横断のカリキュラム改革
●1年次「工業情報数理」2・3年次「課題研究」を再編し6学科共通の学科横断型プログラムを実施
●エキスパートチームと連携し資格取得・教育課程の棚卸し再設計を実施
（教育改革③）企業と共に高度なものづくりを実践する実習環境の構築
●企業の製造現場に近い「テクノトレーニングハブ」を整備し、ファイバーレーザー加工機・5軸マシニングセンタ等で一体的な製造工程を実習
●弘前地区溶接協会・（有）二唐刃物鍛造所等との「溶接塾」、（株）長谷川鉄工との商品共同開発等、企業技術者と取り組む実課題型ものづくりを導入

【他校への普及方策】
●テクノトレーニングハブを活用した県内工業高校の生徒・教員向け実習・研修の実施、学科横断型プロジェクトのカリキュラム・教材・評価方法の共有、匠の技伝承プロジェクト（青森県職業能力開発協会と連携したものづくりマイスターによる技能継承）

「越境型工業人材」の育成

柱1　県内に活躍の場があることを理解する
認知の拡大
GX関連産業技術者によるキャリア講座、企業現場見学・インターンシップの体系化

柱2　技術分野を横断して捉える力を育む
学科横断のカリキュラム改革
学科共通の学科横断型基礎プログラム再編、エキスパートチーム連携及び「課題研究」拡充等

柱3　企業と共に高度なものづくりを実践する
実習環境の構築
「テクノトレーニングハブ」の整備、企業技術者と組む実課題型ものづくり（溶接塾・県内企業との商品共同開発）

連携・協働先
県内企業
大学・研究機関
県内産業団体

学校横断カリキュラム改革

機械科　電気科　電子科　情報技術科　建築科　土木科

6学科共通の学科横断型基礎プログラムに再編

実習環境の整備

地場企業とともに
”高度なものづくり”を実装する
実習環境を構築



【青森県】「社会の変革を自らデザインする」理工系人材育成拠点形成
～ 北空の熱い風が加速させるサイエンス・イノベーション～

八戸北高校

アド	理数	多様
	○	

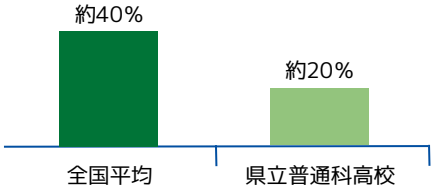
○青森県では半導体・エネルギー等の成長分野を中心に、企業の技術部門を担う理工系人材の需要拡大が見込まれる一方、地域産業を支えるに足る理工系人材の育成基盤が十分に整っておらず、構造的な人材ギャップの解消が急務となっている。
○八戸北高校がSSH指定等で培ってきた「理数系の学びの強み」と、「AI・データサイエンス活用力」を融合させ、科学的な見方・考え方で課題解決を形にできる「理工系人材」を育成するべく、同校を先導的な拠点に位置付け、大学・企業等と手を携えた育成モデルの構築・展開を進める。

人材育成の現状・課題

●大卒理系人材の本県ミスマッチ数は約1.6万人と見込まれ、機械・電気電子・原子力・土木建築等幅広い分野で企業の技術部門を担う理系高度人材が不足している
●県立普通科高校からの理工系大学進学率は約20%に留まり、全国平均(約40%)の半分と低く、理工系大学への進学率向上が急務となっている
●理数系科目への苦手意識やキャリアパスのイメージ不足等から理系進路を敬遠する生徒が多く、学校現場のカリキュラム・実験設備や大学・産業界との連携体制も十分でない

1.6万人
大卒理系人材の
ミスマッチ数
（県内推計）
県全体

県立普通科高校から理工系大学進学率



普通科高校から理工系大学進学率は**約2割**に留まる

具体の事業内容

【拠点における主な改革目標】
●理工系の多様なキャリアを自らの可能性として捉え、科学的な見方・考え方とAI・データサイエンス等を活用して課題解決を形にできる「理工系人材」を育成する

【主な取組内容・創出するパイロットケース】

（教育改革①）理工系の学びの先にある多様なキャリアとの接点拡充と進路選択支援
●技術者・研究者・起業家等を招く講演「The PRO-LOGUE」、八戸工業大学「HITリケジョLABO」と連携した女子生徒向けロールモデル交流を実施
●量子科学技術研究開発機構等を訪問する「サイエンスツアー」を実施、弘前大学・八戸工業大学との高大連携講座及び単位認定制度を充実

（教育改革②）AI・データサイエンス等を活用した課題解決型教育課程の構築
●全生徒必修の学校設定科目「AI・データサイエンス探究」（3年間計5単位）を新設し、統計・AI・アプリ制作等の課題解決プロセスを体系的に学習
●地元企業の課題に取り組む課題解決型PBL「未来への挑戦プロジェクト」を実施

（教育改革③）理工系の学びの発信拠点としての環境整備
●「八北ラボ」「サイエンスルーム」等を整備し、地域の小中学生・保護者・他校生徒向け「八北サイエンス教室」を実施
●協力校（青森東高校・弘前中央高校）と探究成果発表会・カリキュラム共同開発を実施

【他校への普及方策】
●探究成果発表会のオンライン公開・他校参加募集、青森東高校・弘前中央高校との合同開催・教員研修の共有、八北ラボの設備をWeb申請により他校生徒へ開放等



1 理工系キャリアとの接点拡充・進路選択支援



技術者や起業家による講演会、女子生徒向けロールモデル交流

2 AI/DS活用の課題解決型教育課程



AI・データサイエンス活用により、地域の課題解決に向けた社会実装まで

3 理工系の学びの発信拠点の整備



・**ラボやサイエンスルームを整備**し、小中学生等にサイエンス講座実施
・研究発表会や共同開発を実施

他校へ普及
探究発表会の公開・他校との合同開催・他校生徒への開放等

【青森県】どこにいても誰かと共に学べる場をつくる協働的な学び拠点形成 ～小規模校をつなぐ「あおもり学びのプラットフォーム」の構築～

青森県立青森南高等学校
（全日制/普通・グローバル探究科）

アド	理数	多様
		○

○青森県では大学・企業等の教育資源が青森・弘前・八戸の3市に集中する一方、小規模校は県内各地に点在し、外部リソースとの連携機会に地域差が生じている。県のアンケートでも「地域課題への理解」は9割超に達する一方、「学びを具体的な行動に繋げられた」との回答は伸び悩んでおり、学びを社会実装につなげる力の育成が急務となっている。
○青森南高校の「グローバル探究科・国際バカロレアで培った協働的な学びの土壌」と「大学・海外協定校との広域ネットワーク」を融合し、「協働探究人材」育成の拠点として、県内小規模校と手を携えた学びのプラットフォームモデルの構築・展開を進める。

人材育成の現状・課題

●広大な県土に小規模校が点在し、教員配置や連携可能な外部リソース（企業・大学等）に地域差があり、県立高校全体と比べて教育環境に差がある
●小規模校では小中高と同一集団で学んできた生徒が多く、多様な他者との交流・切磋琢磨や異なる考え方を持つ生徒同士の「協働的な学び」を深める機会を学校単独では確保しにくい。少子化が加速する中、この状況への対応は学校だけでは限界があり、県全体での取組が必要

具体の事業内容

【拠点における主な改革目標】
●学校連携ネットワークの構築により、小規模校における「協働的・探究的な学び」を充実させる。社会で求められる「多様な他者と協働する」経験を小規模校でも得られるよう県全域での協働ネットワークを構築し、地域・学校規模に関わらず県内のどこにいても協働的で探究的な学びが確保されている状態を目指す

【主な取組内容・創出するパイロットケース】

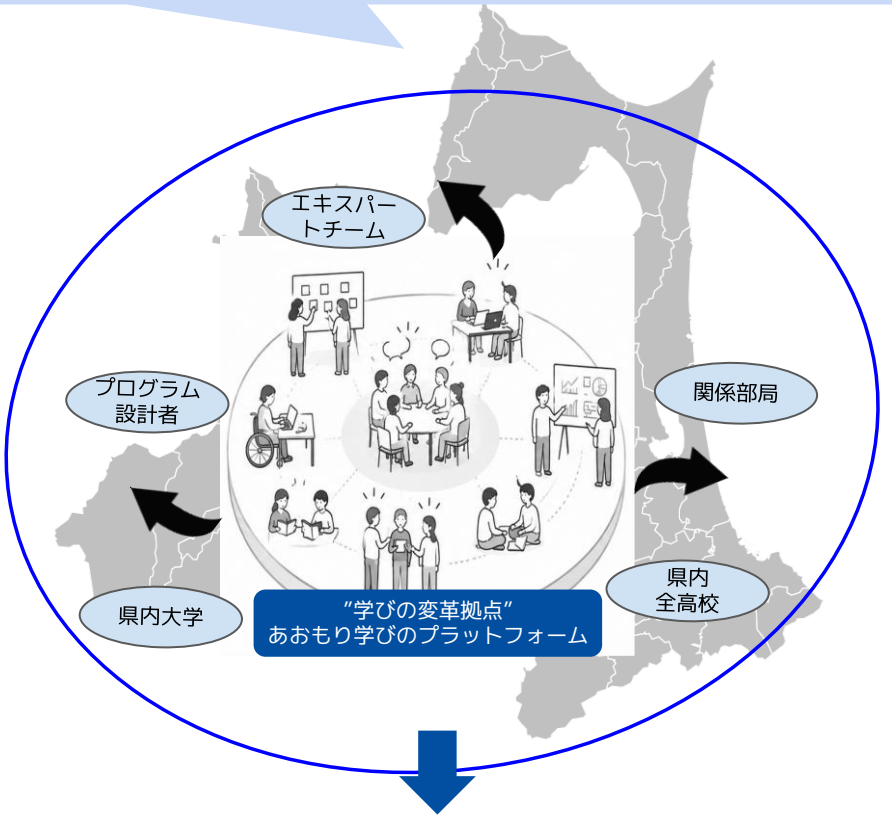
（教育改革①）探究ネットワークと共通の指導・評価基盤の構築
●青森南高校と小規模校（鰺ヶ沢・野辺地・六ヶ所・大間・三戸の5校）を接続した探究ネットワークの遠隔協働学習環境を整備
●青森南高校の学科横断カリキュラム・ルーブリックを土台に、学校間共通の指導案・評価基準を開発

（教育改革②）複数校協働の探究プログラムの制作
●小規模校で機会が不足している課題解決型プログラムを、地域・企業・大学等と連携して開発し、複数校の生徒による協働で実践。企業/大学/行政等による探究サポートチームを組成し生徒の実践を伴走型で支援

（教育改革③）全県波及を見据えた協働プラットフォームの構築
●指導案・評価基準等のコンテンツを共有知化する「あおもり学びのプラットフォーム」を構築し、生徒・教員間の学び合いコミュニティを醸成。成果を小規模校の教育環境整備の全県モデルとして確立し、他校へ普及

【他校への普及方策】
●青森南高校と小規模校5校で構築したネットワーク基盤・オペレーション・システムを全県に展開。公開授業・研究協議会・成果発表会の実施、「あおもり学びのプラットフォーム」による好事例集・教材の共有、探究サミット等の広域参加型プログラム、放課後学習支援「探究アカデミー」により、全県立高校生徒への学習機会を確保

青森南高校を学びの変革拠点に県全域で協働ネットワークを構築し、探究的な学びが確保できている状態を目指す



生徒や教員間の学び合いコミュニティを醸成。あおもり学びのプラットフォームでの**成果を全県へ広げ、普及させる**